

(様式3)

## 自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着型サービスとしての理念を掲げるため、前年度末に法人全体で、理念を見直し、法人の理念の下に事業所の理念を掲げた。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>事業所の理念に基づき、各ユニットの目標を定めている。その目標の下職員は各々のケアを実践、提供している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>自治会の会議や運営推進会議の場を活用し、ご協力とご理解がいただけるよう施設の方針を含め、お伝えしている。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>これまで、受身であったという反省を活かし、近隣のボランティアに施設サイドからはたらきかけている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会長さまのご指導により、6丁目の夏祭りやクリンディのお知らせをいただけるようになった。ご自宅で不要になった衣類や介護用品などを頂戴するようになった。喫茶などのお誘いも受けている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
<b>3. 理念を实践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居申込み時、見学時、面談時、入所判定会議の内容をお伝えする時など、折にふれお伝えしている。見学時に管理者以外が質問に答えていない状況であったため、「見学時対応マニュアル」を作成し、管理者不在時にも不安を軽減できるよう改善した。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>「CSボード」を設置した。苦情箱も設置しているが、なかなか意見が入っていなかったため、口頭でいただいたものも書面で残し、ボードに掲示し運営に参加していただきやすいよう改善した。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>これまでは、個々に応じた対応が充分でなかった。そのため、お便りを個人向けにした。受診結果も、ご希望者や連絡がつかないご家族に「受診内容報告書」として送っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>育成面接時やフロア会議の場はもとより、職員室にて必ず声をかけるようにしている。時間のゆるす限り現場に出向いている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>業務量調査の実施し、ケアプランの日、ORの日を導入している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>実際管理者の異動はある。しかし、経験者を採用することで混乱を最小限にし、前任者も法人内でいつでも協力できる体制を敷いている。また、ありがたいことに職員の離職率は極めて低い。</p>		
<p><b>5. 人材の育成と支援</b></p>			
<p>19 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>教育委員会を設立し、介護技術チェックリストを導入した。また、チェックリストを基に、年間教育計画を立案中である。</p>		
<p>20 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者の前職の協力を得て、交流を行っている。交流研修や見学会への参加、ケアマネ交流会などでネットワークを拡げている。</p>		
<p>21 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>シフト作成時に特に工夫している。リフレッシュ休暇的に、有給休暇も入れている。</p>		
<p>22 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>育成面接やコーチングに力をいれることから始めている。職員の平均年齢から考え、なかなか勉強に時間を割きキャリアアップを目指す気力は薄いようである。しかし、ケアの質を上げたいという思いは強いので、組織全体で応えるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>職員室に来られた時や居室にお邪魔して、お話を伺っている。面談時は、ご家族を通して伺うことが多い。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時のご相談から入居後も左記のように努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>在宅介護での限界を感じて、または入院中で退院をせまられている・・・というご相談が多い。老健やショートステイ、訪問看護等をどうやって申し込めばいいのか、どこがあるのかなどのご相談にも応じている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>面談の日や見学の際には、利用者さまと一緒にお茶などを楽しんでいただけるようお勧めしている。ショートをご利用になられている方などは、外泊を挟んでショートのような利用から馴染んでいただくこともある。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>介護はユーモア、介護する者は役者になれ・・・という気持ちで、喜怒哀楽におつきあいしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	ご家族のご相談を受けているうちに、ともに涙することもある。ただ、ご家族全員と喜怒哀楽をともにできていないのが現状である。		
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	談話室、公民館を開放しており、ご来訪時に活用していただいている。反面、一年以上面会のないご家族も複数いらっしゃるの、面会を促している。また役所の担当者(ケースワーカー等)の力を借りることも行っている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	文通や電話、面会の支援を行い、法事や墓参りにも出かけていただいている。所属の区は違うが、俳句同好会やクリーンディに老人会(自治会)の代表として参加していただけるよう支援し、入所前と変わらぬ状況を提供するよう努めている。		
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士、正直波長の合う方、そうでない方もある。そういったことも念頭に置き、無理やり仲良くしていただくよう支援するのではなく、自然な形で打ち解けていただけるようなアプローチに徹している。		
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や転居後もお見舞いや面会に伺っている。特に気のあっていらしかった利用者とともに伺うことで、面会に伺った方も喜んでくださったことがある。また、逝去の際にお知らせを頂戴し、退去後数ヶ月経過していたが、告別式に参列させていただくなどお付き合いが継続している。こちらからは、行事等にお誘いしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>意向の把握には努めている。本人本位というより、判断が困難な利用者さまは、ご家族本位になってしまっている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の面談や入所判定会議の前に、個人史や馴染みのもの（何に囲まれて過ごしていらっしやるか）を知るためにも、ご自宅等へ出向いて面談を行うことがある。また、デイやショートを利用されたことがある場合などは、情報提供をケアマネなどにお願ひし、把握に努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>センター方式を導入し、ケアプランに活かすことを決定した。そのため、ケア担当者と計画作成担当者の話し合いの時間を取るために、フリーの日を提案、稟議し可決されたところである。現時点では、センター方式を活用しきれていないため、取り組んでいきたい項目のひとつと判断する。</p>	
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>カードックスの活用、気づきメモ、つぶやきノートを活用し、介護計画に反映している。ご家族の意見も口頭で伝達するだけでなく、書面で残すよう改善した。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しが滞りがちであったが、計画作成担当者がフリー出勤の日にケアプランの作成に没頭できる日が2週間に1日程度設けることで、カンファレンスの内容をケアマネへ流せるシステムを作り、アセスメントに時間を割くように努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有に努めている。休暇等があっても、連絡ノートやカードックスからの自主的な情報収集により、ケアに活かしていけるよう心がけている。		記録に関しては、職員に教育している途中である。現在の能力に応じて、ご家族に分かりやすい記入方法を心がけているが、ケアプランに反映しにくい様式であることから、十分とはいえない。法人全体で書式を見直しているところである。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の暮らしを馴染みの職員が継続的に支援できるようシフト等を工夫してる。入所前のサービス提供者の来訪もお願いしている。職員にとっても、良い情報収集の機会となっている。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	犬との散歩、園芸クラブの活動など、ボランティアの力を借りて実施。職員に関しては、「救急処置法」を救急外来の専門看護師さんの協力を得、ご指導いただくことになっている。地域の保健師さんより、「高齢者虐待について」の勉強会を開催していただくなどしている。		
41 他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	医療連携室の看護師との情報交換や社協のボランティアをカルチャークラブの講師としてお招きするなどの協力を得ている。ご近所の喫茶（配食サービスあり）にお誘いいただいている。		
42 地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	事業所のみで解決困難なケースに携わっていないが、協力していただける体制はできている。ボランティアをご紹介いただき、入所対象者をご紹介いただいたりしている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>49</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご自宅への訪問面談を行うことで、自宅の構造やベッドの使用の有無などを把握し、リロケーションダメージを最小限に抑えるよう心がけている。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ちゃんと幼いころから呼ばれているので、そう呼んでほしいというご希望の方には、ちゃんづけを行っている。その他の方はさん・・とし、使い分けている。個人情報の保護にも配慮している。</p>		
<p>51</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>筆談や表情、言葉に抑揚をつけるなどし、説明を行っている。利用者の表情が曇りがちな時は、職員から話しかけたり、居室にお邪魔してお話させていただいている。</p>		
<p>52</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>業務に追われ介護者の都合に合わせてしまっていた反省から、毎日同時に個々のペースに合せようと無理をせず、今日はさんにスポットをあて喜んでいただけるように努めるなど、徐々に個性を重視したケアにつながるよう努めている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご自身で鏡を見ていただき、おしゃれ心を忘れないよう支援している。訪問美容での眉カットや髭剃りも好評で、鼻パックを体験された方もある。外出時には一張羅を出して来られるなどしている。入居前の馴染みの美容院にご家族と行かれる方もある。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安価な自助具の工夫と個々のレベルに応じた食事の準備をお願いしている。味見だけの方もあるが、全員分のお好み焼きを焼かれる方もある。		
55 利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙歴のあった方は、入所を機会にやめさせたい・・・というご家族の希望により中止している。おやつは、全員同じ場合もある。しかし、駄菓子屋の利用や買出し時に購入されることで、選らんでいただけるような機会を提供している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、排泄のパターンを把握するよう努めている。そのため、誘導はさまざまである。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	見守りだけで入浴が可能な方は、可能な限りご希望に応じている。しかし、機械浴の設備もないことから12時～16時までの間（3人勤務中）に入浴が集中しがちで、楽しんでいただけているかは、疑問である。当然のことだが、下痢などの場合には、臨機応変に対応している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝の習慣がある方や早寝早起の習慣のある方には、習慣どおり生活していただけるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	塗り絵が好きな方には塗り絵を、裁縫の得意な方には、簡単な縫い物をお願いしている。俳句・書道の得意な方には、詠んでいただいた句を短冊にしたためていただいている。メニュー書きやご来訪者へのお茶だしなどを役割としてくださる方もある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとしてお預かりしているが、子供銀行のお金を大切にしていच्छる方やご自身で千円程度持っていच्छる方もあり、希望に応じた対応を心がけている。		
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り対応している。ご希望がない時でも、外出の機会を設けている。お一人で外出したい・・という希望には、気づかれないよう付添うこととしているが、気がついて立腹されることもあり、満足いただけない場合がある。		
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご希望は、ご家族の協力を得ながら、叶えるように努めている。		
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキや手紙だけでなく、なのはなの公衆電話も利用していただいている。FAXの利用も支援している。FAXは馴染みがない手段ではあるが、返事も早く、喜ばれている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の制限を行わず、談話室や公民館を開放して支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの作成と勉強会を開催した。魔の三ロックに関しても周知している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠している。職員が談話室や庭にいる場合などは、施錠していない。しかし、玄関先は急なカーブで自治会からも運営推進会議でも「施錠しておくように・・・」とご指導いただいた。外部からの不審者があり、パトロールの警察の方からも同様のご指導をいただいた。玄関に関しては、開放することによるデメリットが増えてきているのではないかと考える。		
67 利用者の安全確認  利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーを保護し、安全に配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食の可能性があるので即撤去ということは行っていない。ただし、リスク管理の視点から「有害な殺虫剤を安全な薬品に変える」などは実施した。		
69 事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書を参考に指導することもあるが、正月の雑煮が振舞われる時、海苔巻きの日、状態の悪化の可能性のある利用者がある場合、退院直後の利用者がある場合など、マニュアルに沿って指導している。		
70 急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	日勤だけの年に20日程度の出勤の者に対し、行えていない。		今後の定期的実施し、落ち着いて実施できるよう指導したい。
71 災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災グッズは、9月9日前後に点検している。ご近所やなのはなの協力を得ながら、防災訓練を実施している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	急変の可能性や転倒の可能性がある場合は、職員間で対策を話し合い、ご家族とも相談させていただく。説明の内容によっては、往診医から行っている場合もある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	管理者不在時であっても（何時であっても）連絡するように周知徹底し、情報を共有している。また、往診医の協力もいただけており、何時でも指示をいただけている。		
74 服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を閲覧できるように改善した。また、協力関係にある薬剤師に質問等も可能な状況である。		
75 便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	認知症を改善するには、「水・めし・くそ・運動」という竹内理論を基に、便秘の予防に努めている。便座に前傾姿勢で座っていただく、腹部のマッサージ、肛門周囲の刺激などを試みている。実施することで、浣腸の回数が激減した利用者もいる。		
76 口腔内の清潔保持  口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ハミンググッド、ポリデント、お茶も活用し、個々に応じたケアに努めている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の目安を往診医と相談し、支援に努めている。過度な摂取により、循環器に負担が生じる場合があるので、個々の目安があることも併せて指導している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）	法人内に感染防止委員会があり、施設にも設立した。マニュアルも作成し、取決めに沿って予防を行っている。他の事業所の取り組みをご教示いただいたこともある。		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	中国製品のトラブル以降、法人全体で気をつけている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	今年に入って、有刺鉄線を排除した。自治会の協力を得ながら、庭の手入れにも時間を割くように改善した。園芸クラブ・委員会の設立を行った。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	野花を飾るなどで季節感を取り入れている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パブリックスペース的に公民館を造った。空部屋の活用であるが、昭和家具をイメージした。DVDを上映する日、駄菓子屋が開店する日、カルチャークラブのおこなわれる日、多数の面会があった時など、用途は様々であるが自由に使ってもらっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	上記と同じ	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

管理者が代わったことを良い意味での変化と捉えられるよう、就任後より内部監査的な見直しを行ってきた。、職員のケアの質の向上のためには